

# “毎日笑顔で過ごせる保育施設選び”

吉田 源子氏の講演会より

良い保育施設は「一人ひとりの子どもを大切に」「子どもの命を守ってくれる」園ということでした。今の時代、インターネットで検索すれば、施設・行政からの発信、利用者からのクチコミ等情報が集められますが、ネットの情報は操作しようと思えばいくらでもできてしまいます。ですから、基本情報を収集したとしても実際に施設に足を運んで、人や環境を吟味することは必要不可欠です。まずは見学に行きましょう。そして、実際にその施設で働いている人から話を聞いて、保育者や子ども達の様子を見てみましょう。人任せにせず、自分の目で確かめることも大切です。



見学に行きどんなところをみたらよいかわからないという方の為に死亡事故が起きている施設の特徴からチェック項目を挙げてみます。

## 保育施設選びのチェックポイント

- 園の見学をさせてくれるか
  - ・見学させないのは保育内容のレベルが低いのを隠していたり、宣伝文句とは違っているのかも知れません。
- 掃除が行き届いているか
  - ・建物がきれいなだけでは安全とはいえません。小さい子ども達はハイハイしながら床に突っ伏したり、床に落ちているゴミでもおもちゃでも口に入れたりするので清潔に保たれていることは重要です。
- 防災・防犯上の対策がとられているか
- あおむけ寝をさせているか
- 保育者の見守り体制
- お昼寝中の部屋は明るい(顔色等に異常がないかを確認しやすい為)
  - ・お昼寝中の窒息事故を防ぐためには、保育室に常に保育者がいて、子ども達を観察する必要があります。(定期的に子どもの呼吸・体位、睡眠状態を観察することにより異常が発生した場合の早期発見、事故の予防のためです。)
  - 【子ども一人ひとりにセンサーを付けている園もあります。】
- 園児の年齢別の保育士の配置(県・国の基準に沿っているか)
- 有資格者の数
- ベテラン保育士がいるか(子育て経験者はいるか)
  - ・経験が浅い保育者ばかりだと、子どもの発達についての知識が少なかったり、子どもの困った行動に対するスキルの蓄えが少なかったりするという事です。精神的にも心にも余裕がない場合もあります。そんな時、経験豊かな保育者が入ると子どもの困った行動が理解可能なものになり、心の余裕も生まれるかもしれません。また、保護者の方も相談しやすくなります。
- 常勤保育士の割合
  - ・日替わりで来る保育者は子ども一人ひとりの癖や特徴を把握して保育することは困難でしょう。子ども側から見ても見知らぬ人にストレスを感じ、安心して過ごすことができずストレスがたまる場合もあります。
- 保育者同士が明るくチームワークがいいか
  - ・保育者同士が上手くいっていない場合、保育者の表情にも発刺さや明るさが感じられず、暗い表情になりがちです。園内の雰囲気も殺伐とします。子ども達の命と安全を守るためには職員相互のチームワークが重要です。
- 連絡帳の書かれかた
  - ・子ども一人ひとりを観察していたら、連絡帳に書かれていることが抽象的な遊びや出来事だけ書かれているのではなく、子どもが関心を示したことや発した言葉・表情等が書かれているはずです。
- 子ども達の表情
  - ・保育されている子ども達はどんな表情をしているか。暗い表情だったりすると一人ひとりの子どもの違いを認めず、教育法や指導法に子ど押し込めようとしている場合もあります。子どもにはやらされている感があるのです。また、明るく楽しい表情だと一人ひとりの子どもの違いや思いを受け止めて対応する柔軟性を持った保育をしている園が多いはず。子どもにとってもやらされている感がなく楽しい園生活になっています。



## ☆園の見学にはママだけではなく、パパも一緒に行くとよいでしょう。

父親視線は母親視線とは違ったところに気づくこともあります。



最後に「園ごとに保育方針は違っています。保育方針がお子さんに合っていることも大切なことです。」と話してくれました。

吉田源子氏の3人のお子さんは、3人共に違う園に通園したそうです。

理由は保育方針の違いと保育方針がお子さんに合っているかを重視したそうです。

このコラムは吉田源子氏の講演会と猪熊弘子・寺町東子著書の子どもがすすく育つ幼稚園・保育園を参考に作成しました。